



—東地中海地域ニュース—

イラン：核問題に関する大統領他の発言

(10月12日付 現地報道取纏め)

イランの核問題に関する10月12日付の現地報道を取りまとめると、概要は以下の通りである。

1. アフマディーネジャード大統領の発言（11日、イラン国営TV他）

- (1) ジュネーブ協議は前向きなものであった。もし、公正を交渉のテーブルの上に置くのであれば、より良い見解の一致をみるであろう。
- (2) 次回の協議もイラン側の新提案パッケージにもとづいて行われることとなっている。もしも、これ以外に関して提起されるならば、それらの全ては双方にとって平等に扱われなければならない。何故なら、不平等な条件における対話は何の意味もないからである。次回協議で問題が生じるとは思わない。しかし、もし誰かが問題をもたらそうとしているのなら、それは成功しない。成功しないということは、（問題をもたらそうとしている者が）損害を被るということである。
- (3) （テヘラン研究用原子炉の燃料供給に関する議論に言及し）これは、相互理解を助ける為のイランによるイニシアティブである。イランが、建設的な協力の土台を形作るべく（協議）相手国の為に対話の扉を開いたのである。もし、この協力が形になれば、見解の相違に対し、建設的な影響をもたらすであろう。実際、これはひとつのテストである。
- (4) ジュネーブ協議に出席していた大多数の国が（同協力に関する）用意を表明しており、10月19日、テヘラン研究用原子炉において医療目的で使用される20%の濃縮ウランの購入条件に関して議論が行われるであろう。

2. ソルターニーイエ IAEA 常駐代表の発言（12日、「テヘラン・タイムズ」紙他）

- (1) 10月19日の協議は、テヘラン研究用原子炉の燃料供給に関するイラン側の要請にもとづいて開催される。米・露・仏が（同燃料）供給の用意がある旨を表明している。
- (2) イランは、基本的に彼らの提案に合意している。しかし、技術的な詳細とその他の関連事項に関して協議する必要がある。同原子炉への燃料供給に関し、IAEAは調整を行う責任を有していることは明らかである。